

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070502242
法人名	医療法人 心愛
事業所名	グループホーム ドレミ
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区中曽根東4-14-6 (電話) 093-474-4122

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年2月5日	評価確定日	平成20年3月5日

【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	12人, 非常勤 6人, 常勤換算 4.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500~42,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費(10,000円)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
または1日当たり 1,100円				

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山崎リゾートクリニック / 北九州総合病院 / 蒲生病院 / 久鍋歯科
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームドレミは、北九州市小倉南区の成熟した住宅地の中にあり、田園風景にも恵まれた環境を有している。地元の山として親しまれている貫山を毎日仰ぎ見ることができ、地域より入居された方には好評を得ている。グループホームは平屋造りでゆったりと広く、2ユニットが対で建てられており、ユニットごとに個性溢れる空間づくりを工夫している。医療法人心愛グループのグループホームで、同法人の山崎リゾートクリニックが医療面のバックアップを行っている。年中無休という医療体制を取っており、入居者や家族にとって高い安心感を提供している。現在、センター方式を導入し、これまでの入居者の生活歴などを深く掘り下げ、入居者の思いや意向を更に把握するために、管理者と職員が日々努力を重ねている。今後は、センター方式や気づきノートの活用により、介護計画への反映が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、「玄関の施錠」「栄養バランスのチェック」「職員のスキルアップのための研修」「ターミナルケアの検討」「ケアプラン作成におけるセンター方式の検討」「家族会の設置」などが課題としてあがり、関係者で改善に向けた協議を行い、課題解決を図っている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価の勉強会を開き、ケアマネージャーと共に評価項目に対するサービスやケアの検討を行っている。
	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、毎回、「入居者の利用状況(人数・要介護度・年齢) / 入居・退去状況 / 行事報告 / 事故状況」などを報告し、ターミナルケアの取り組みや入居者間のトラブルなどアドバイスをいただく機会として活かしている。今後は、更に運営推進会議の参加については、多様な地域の方々への参加を期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	家族の意見の把握は、毎月1回「ふれあい通信」を発行し、その裏に家族の意見や要望があれば書いて提出していただくように取り組んでいる。また、家族会を設置し、家族からの意見や要望を聞く機会として活かし、運営推進会議にも家族が参加し、意見や要望を出していただけるように取り組んでいる。行事の際には、多くの家族の参加があり、家族と話せる機会として捉え取り組んでいる。出された意見や要望は、検討を行い、運営に反映していくように努めている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入し、敬老会や運動会など地域行事に参加している。グループホームの餅つき大会は家族や地域の方々にも参加を呼びかけている。また、フラダンスや大正琴などのボランティアを受け入れ、地域との交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、地域密着型サービスとしての内容検討を行い、理念の見直しを行っている。その中で、地域密着型サービスとしての役割を明記している。理念は5ヶ条となっており、入居者の権利と希望を最大限に実現するために「1.家庭的で温かい雰囲気 2.人としての尊厳 3.生きがい自立 4.安全・安心な生活 5.社会的交流の確保」を掲げ、運営方針も定めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回、職員全員の会議で理念を振り返り、理念の共有化を図っている。理念をもとに「どのようにケアをしていくのか」など問いかけながら、理念を現場の実践におきかえて、理念の理解が高まるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、敬老会や運動会など地域行事に参加している。グループホームの餅つき大会は、家族や地域の方々にも参加を呼びかけている。また、フラダンスや大正琴などのボランティアを受け入れ、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の改善を真摯に受けとめ、ほとんどの改善を職員一丸となって積極的に取り組んでいる。今年度の自己評価は、勉強会を開き、ケアマネージャーと共に評価項目に対するサービスやケアの検討を行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、毎回、「入居者の利用状況(人数・要介護度・年齢)/入居・退去状況/行事報告/事故状況」などを報告し、ターミナルケアの取り組みや入居者間のトラブルなどアドバイスをいただく機会として活かしている。今後は、更に運営推進会議の参加については、多様な地域の方々への参加を期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協議会に加入し、協議会を通じて市町村への意見や要望などを提出している。ケースワーカーとの連携を積極的に図り、情報交換を頻繁に行い、入居者の状態などを報告している。今後は、市の担当窓口とも情報交換を行うことが期待される。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	入居者へのプライバシー配慮の話し合いの際に、権利擁護についても話している。「身体拘束・虐待」に関する内部研修を行っており、入居者の権利について学ぶ機会を確保している。今後は、入居者の身体機能の低下や症状の進行などが予測され、成年後見制度など、家族へ情報提供できる体制づくりが求められる。		北九州市では、ウェル戸畑に北九州成年後見センター・権利擁護センターがあり、関係するパンフレットなども置いており、人権擁護に関して相談ができる体制がある。それらの専門機能から情報を得るなど権利擁護の理解を高めることが求められる。また、研修の機会など情報収集を行い、研修参加を行うことが求められる。
4. 理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、「ふれあい通信」を発行し、入居者一人ひとりの健康状態・行事・ケア状態・生活状況・月ごとの介護目標などを報告している。また、「ふれあい通信」の裏面を活用し、家族からの要望や意見を出していただけるように工夫している。また、毎月の利用料は、必ず、家族の来所による支払いをお願いしており、その際、家族へ入居者の状況を報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見の把握は、毎月1回「ふれあい通信」を発行し、その裏に家族の意見や要望があれば書いて提出していただくように取り組んでいる。また、家族会を設置し、家族からの意見や要望を聞く機会として活かし、運営推進会議にも家族が参加し、意見や要望を出していただけるように取り組んでいる。行事の際には、多くの家族の参加があり、家族と話せる機会として捉え取り組んでいる。出された意見や要望は、検討を行い、運営に反映していくように努めている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はなく、グループホームの職員は固定するように決めている。離職の際には、職員と入居者のなじみの関係を配慮し、事前に話しておくなど、入居者のダメージを防ぐように努めている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用にあたっては、性別・年齢などを理由に排除しないようにしている。採用については、試用期間を取り、「グループホームで勤務していけるかどうか」の判断をしてもらうように取り組んでいる。職員のスキルアップのためには、研修費の補助や休みが取れるようにバックアップしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	内部研修により、「身体拘束・虐待」についての研修は行っているが、「認知症高齢者の人権」についての研修は行われていない。		「認知症高齢者の人権とは」をテーマに研修の情報収集を行うなど外部研修への参加や内部研修の充実が求められる。
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	年間の研修計画が立てられ実施している。研修のテーマは「認知症について」「防災について」「接遇・マナーについて」「口腔ケアについて」など、多彩なテーマを設定し行っている。グループホーム協議会の研修にも参加している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に加入しており、同業者との交流を図る機会を作っている。また、運営推進会議に近郊のグループホームや施設の関係者が参加するなど、情報交換や交流を高めるように努めている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居者が入居の際には、職員が付き添い、徐々になじんでいただくように支援している。また、入居時には家族の面会を多くしていただくなど、家族の協力を得るようにしている。入居状況によっては、体験入居もできるようにしている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	一方的な介護にならないように、入居者の能力を活かし、これまでの暮らしの延長として、掃除・食器拭き・畑づくりなど役割を果たしていただけるように声かけを行い、入居者の今ある能力を発揮できるように支援している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を導入し、入居者の生活歴や趣味・嗜好など把握できるように取り組んでいる。日々の職員の気づきはノートを作成し、その時々入居者の思いや意向を把握するように努めている。今後は、職員間でセンター方式や気づきノートの情報の共有化を図り、ケアの現場で活かしていくことが求められる。</p>		<p>センター方式や日々の気づきノートなどを活用し、話しかけの材料にしたり、思い出や、その方にとっての楽しみごとなどを引き出し、そのことを材料に声かけを行い、入居者のニーズを更に深く掘り下げ、ニーズにそった取り組みを期待したい。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントにより、短期目標・長期目標が設定され、目標に応じたケア内容を検討しているが、医療情報の充実が求められる。また、医療連携のため、訪問看護の目的を明らかにした看護計画が求められる。</p>		<p>医療情報は、認定審査会の情報を入手することが必要である。また、月2回、訪問看護を受け入れているため、訪問看護の目的や内容を明らかにした看護計画が求められる。その中では、リハビリとしての歩行訓練など、具体的な回数など目標設定が求められる。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>サービス計画実施表により、日々のケアの実施状況が記録され、毎月、モニタリングが行われており、現状に即した介護計画の見直し・作成を行っている。入居者の転倒防止を防ぐために、薬の副作用の確認を行ってほしい。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>法人の所有するマイクロバスがあり、バスハイクなど外出を楽しんでいただけるように支援している。法人が運営するグループホームが3ヶ所あるが、当グループホームは駐車場と建物が広い為、法人の行事の会場となる場合が多く、入居者に楽しんでいただける機会を多く持っている。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>運営母体が医療法人であるため、同法人の医療機関が、かかりつけ医となっている入居者が多いが、かかりつけ医を希望する入居者は、そのまま継続して受診していただいている。今後は、訪問歯科による嚥下機能の訓練など機会をつくり取り組んでほしい。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	同法人の医療機関がグループホームから距離があるため、主治医の問題が大きく、ターミナルケアの検討を行っている段階である。今後は、家族のターミナルケアのニーズを把握し、医療機関の関係者や職員などと話し合い、ターミナルケアの体制づくりが期待される。書類としては、「病状の重度化に対する事業指針」が整備されている。		重度化や終末期に関して、対応が可能なこと、困難なこと、不安なことなど、職員全員で率直に話し合い、家族や医療関係者などと連携を図りながら、チームで支援していく体制づくりが求められる。関係者での話し合いや連携体制づくりに取り組む必要がある。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者の、これまでの暮らしに合わせた声かけを行っている。居室は、入居者の意向にそって内側から鍵を掛けることができ、外側からも開けられるようになっており、入居者のプライバシーが保たれるように支援している。記録類は、事務所の戸棚に見えないように保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	1日のスケジュールを決めずに、入居者本人のペースを大切にしたいと取り組んでいる。ボランティアの協力により、アクティビティの種類を増やし、できるだけ選択肢を多くするなど工夫している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者は食事の際、野菜の皮むきや洗い物など、できることは手伝っていただいている。毎日の献立は、入居者の食べたい物を聞いたり、その日その日の材料の中で工夫している。毎食、焼酎を飲まれる方もおり、食事を楽しんでいただけるように取り組んでいる。また、外食も支援している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことのできる支援	週2～3回の入浴を支援しており、職員のローテーションにもよるが、いつでも、入浴できるように支援できることを目指して取り組んでいる。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	毎月、季節に応じた多彩な行事を実施している。誕生日のお祝いとして、本人が行きたい場所への外出・プレゼント・食べたい料理など、楽しんでいただけるように支援している。また、農業に従事していた方が多いため、グループホームの横に畑を作り、芋や野菜栽培など、これまでの経験を活かしていただけるように取り組んでいる。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日課として、散歩を個別に支援している。新北九州空港が近く、ショッピングセンターも近いので、ドライブや外食など、楽しんでいただけるように支援している。個々のなじみの場所や行きたい所なども、家族と協力しながら外出支援を行いたいと考えている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	昨年度の改善項目として挙がっており、鍵をかけないように、玄関にブザーを設置するなど鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回、避難訓練を実施している。今後は、夜間の災害なども考慮され、地域住民の協力・参加による避難訓練の実施が求められる。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事・水分の摂取量は常に確認し記録している。栄養バランスについては、法人の管理栄養士がおり、献立をチェックし、アドバイスを受けている。糖尿病の方は、定期的な血液検査でチェックしている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	2ユニット共、広々としており、天井には、吹き抜けの灯りとりにより、自然光が入る工夫があり、開放感がある空間となっている。壁には、ミニ絵画や布製の作品が飾られ、家庭的な温かい雰囲気づくりの工夫がある。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	3種類の居室の広さが異なる部屋があるが、どの部屋も暮らしやすい造りとなっている。各居室共、扉にそれぞれ個性的な暖簾が掛けられ、なじみのある箆笥やテーブル・椅子が持ち込まれ、生活感のある空間となっている。また、カーテンもそれぞれ、好みの物が掛けられ、居心地の良い空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			